

学校経営計画

東京都立多摩科学技術高等学校長
白鳥 靖

1 「目指す学校」と「育てたい生徒像」

本校は将来の科学者・技術者を目指す生徒のために大学進学を前提とした進学型専門高校である。生徒の夢を実現するため、普通教科に関する基礎学力を確実に身に付けさせながら、豊富な実験設備や組織的な教員体制の下、科学技術に関する探究心、意欲及び知識などの基本素養を育てることを特徴としている。

開校から10年目となり、3月には第七期生の卒業を無事に迎えることができた。理系進学校として取り組んできた結果、国公立大学への合格者は、第六期生47名に続き、第七期生は50名以上の目標で取り組み45名であった。既卒生との合計は54名となった。

また、2期目のスーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）の活動を推進するとともに、進学指導推進校・理数研究校・英語教育推進校として、理数教育、科学技術教育、英語教育および進学指導の取組を、さらに充実させる必要がある。

今年度は、理系進学校としての取組をさらに充実させるとともに、高大連携プログラムの実現に向け東京農工大学との連携充実を図る。その結果として、理系進学校やSSHとしての責務を果たしていく。

目指す学校像

- 1 科学技術創造立国日本の中核を担い、国際社会の中で活躍する「将来の科学技術者や研究者」に必要な基礎力を育成する学校。
- 2 科学技術に関する興味関心と意欲を醸成するとともに、大学等への進学による専門的な学習に備え、科学技術に関する広い基礎知識や、創造力、論理性などの基本能力を身に付けることができる学校。
- 3 大学受験に必要な基礎学力の指導を確実にを行うことにより、生徒一人一人の興味・関心に応じた理系4年制大学などへの進学が実現できる学校。

育てたい生徒像

- 1 先端科学技術のみならず広く自然科学への知的好奇心・探究心・学ぶ意欲に富む生徒の育成。
- 2 将来の科学技術分野を担うスペシャリストを目指す、志あふれる生徒の育成。
- 3 地球環境問題、技術者の倫理観など現代社会における科学技術と人間とのかかわりを学ぶ中で、幅広い教養と豊かな人間性を有する生徒の育成。

2 中期目標と方策について

学校教育目標

- ・科学技術への好奇心と探究心を育て、創造力を伸ばす。
- ・進路実現に必要な学力を確実に育てる。
- ・柔軟な発想力と論理的な課題解決力を育てる。
- ・社会人としての責任感と豊かな人間性を育てる。
- ・自らの可能性に気づかせ、未来をひらく志を育てる。

以上の学校教育目標を達成するために、次の中期目標を設定する。

(1) 中期目標

中期目標	方策
<p>【1】希望の理系大学進学を実現させる、進学校としての教育内容と指導を充実させる</p> <p>国公立大学60名(中期目標)</p>	<p>(1) 習熟別指導や少人数指導の最適活用を図る。 (2) 研修等の活用による教員個々の指導力の向上。 (3) 補習や講習等の充実と活用による、きめ細かな指導実施。 (4) ICT 機器の活用による、授業効率や効果の向上。 (5) 家庭学習の質と量の充実。 (6) 多様な大学受験方法に対応した、最適な進路指導の実施。 (7) 高大連携プログラム実現に向けた東京農工大学との連携推進。</p>
<p>【2】科学技術への関心と基礎力育成するため本校ならではの教育内容を充実させる</p>	<p>(1) スーパーサイエンスハイスクールの取組による科学教育の充実とその評価。 (2) 専門教科と普通教科を連動させた学習効果の高い指導の実施。(クロスカリキュラムの開発・実践) (3) 報告・説明能力やプレゼンテーションスキル指導の充実。 (4) 科学技術アドバイザー制度の活用。 (5) 科学技術科として、生徒の意欲・能力開発につながる特色のある特別活動の実施。 (6) 校外発表コンテストや外部との共同事業など、生徒の主体性や挑戦心の育成につながる活動の実施。 (7) 地域や小中学校との連携による科学を軸とした、社会への貢献と生徒体験の充実。 (8) 国際体験やグローバル意識醸成の取組の実施。</p>
<p>【3】心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる</p>	<p>(1) 相互に尊重し合う心の醸成と、挨拶の励行指導実施。「あいさつの飛び交う学校」を目指す。 (2) 遅刻防止指導の徹底。 (3) 制服等の身だしなみ指導の徹底。 (4) 生徒会活動の活性化。 (5) 部活動の活性化。</p>
<p>【4】本校志願者数の増加(適正入選倍率の確保)</p>	<p>(1) より多くの中学生や保護者等へ本校の情報の発信。 (2) 来校者に対するお客様意識の徹底。 (3) 生徒参加による本校広報の実施。 (4) 発信情報(学校案内、発行物など)の魅力や質の向上。 (5) 本校を体験するイベントの充実((授業、部活、文化祭等)。 (6) ホームページの活用による本校の魅力や情報の発信。 (7) 小金井「科学の祭典」への協力とイベントの活用。</p>

(2) 平成31年度の取組み目標と方策

ア 教育活動の目標と方策

活動目標	本年度（平成31年度）の主な方策	担当分掌（リード役）					教科 普通 科技
		総務	教務	生指	進路	科研 担任	
①学習指導の充実	(1) 学力向上に向けた組織的な学習指導（進学指導推進校） ・模試分析を活用した指導内容・方法の充実		○		○	○	○
	(2) 自宅学習促進 ・自宅（授業外）学習の実態把握および動機づけ		○		○		○
	(3) 教育課程及び学カスタンダードの円滑な実施		○				○
	(4) 授業力の向上に向けた取組 ・大学入試問題の分析（5校以上）と生徒への還元 ・指導教諭の授業参観等を活用した教科会の充実		○				○
	(5) 「課題研究」「卒業研究」指導充実（SSH・理数研究校） ・進学（AO、推薦）の強みとなるテーマと指導の徹底 ・科学技術アドバイザー制度の活用				○	○	○
	(6) 教科横断的な視点に立った教育内容の充実 ・クロスカリキュラムの開発・実践と評価（SSH）					○	○
	(7) 科学技術に関する指導の充実（SSH） ・「先端技術と社会」及びカリキュラム開発の総合研究 ・第二期 SSH 事業の充実					○	○
	(8) 国際体験の充実（SSH・英語教育推進校） ・海外研修や国際体験の実施	○	○	○	○	○	○
	(9) オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・2020大会以降のガ ン構築を見据えた取組を実施	○	○	○	○	○	○
	(10) 英語教育推進校として4技能向上に向けた取組		○			○	○
②進路指導の充実	(1) 進学指導校内体制の充実 ・入学～受験までの総合指導の充実 ・教科代表者会議を活用した進学指導の充実		○		○	○	○
	(2) 生徒の進路実現に向けた意識の向上（1・2年生） ・進路講演会や成功事例紹介等の活用				○	○	
	(3) 進路指導を支援する体制の構築と活用 ・探究活動を活かすための大学研究室調査（5つ以上） ・担任・進路・教科の情報共有による個別指導の充実				○	○	○
③生活指導の充実	(1) 「あいさつの飛び交う学校」定着と取組の推進 ・教職員による率先垂範の徹底	○	○	○	○	○	○
	(2) 「けじめのある気持ちの良い学校」全職員一貫指導 ・遅刻防止指導、身だしなみ指導	○	○	○	○	○	○
	(3) 体罰の根絶に向けた取組の推進 ・教科会及び生活指導部を中心とした体制の構築	○	○	○	○	○	○
	(4) いじめに対する総合対策の実施 ・学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制の確立	○	○	○	○	○	○
	(5) 自殺対策に資する教育の推進 ・自殺総合対策大綱に基づく指導の実施	○	○	○	○	○	○
	(6) 小金井工業高校との連携充実。 ・生徒指導や校内美化環境の情報共有と円滑な運営			○		○	
④特別活動、部活動の充実	(1) 外部発表機会の活用と発表内容の充実（SSH） ・計画的な取組の実施 ・高い目標への挑戦と指導の実施					○	○
	(2) 科学リテラシー振興拠点として地域連携の充実 ・科学の祭典や小中学校との連携（SSH）					○	○
	(3) 科学技術系高校の特色を生かした学習等の実施			○		○	
	(4) 部活動や生徒活動の活発化（特別推薦の活用）		○	○		○	
	(5) 生徒の体力向上の推進 ・東京都統一体力テストの実施と施策の活用		○	○			○
	(6) 体育祭の充実 ・生徒の力で運営する体制の構築			○		○	○

活動目標	本年度（平成31年度）の主な方策	担当分掌（リード役）						教科 普通 科技
		総 務	教 務	生 指	進 路	科 研	担 任	
⑤保健活動の充実	(1) スクールカウンセラーとの連携による指導の充実			○			○	
	(2) 特別支援教育研修実施と職員の意識啓発 ・教育相談研修実施と意識啓発	○	○	○	○	○	○	○
⑥募集・広報活動の充実	(1) 平成30年度取組内容を基にした活動の継続と見直し ・中学訪問、生徒訪問、中学校教員対象説明会、塾対象説明会、体験イベントなどの積極実施 ・「お客様志向」の徹底	○	○	○	○	○	○	○
	(2) プレゼンテーション資料などの校内共有 ・全職員による共有の徹底。 ・データや資料の活用、メッセージの一貫性や整合性	○						
	(3) ホームページの充実(改定、更新頻度の確保)	○						
⑦情報管理の徹底	(1) 校内個人情報管理基準の運用徹底 ・「見える管理」「個人情報の意識啓発」の徹底	○	○	○	○	○	○	○
⑧学校経営・組織体制の充実	(1) 小金井工業高校との日常連携の充実(各分掌)	○	○	○	○	○	○	○
	(2) 業務の効率化を図り、働き方改革を推進 ・週60時間以上勤務する職員をゼロにする。	○	○	○	○	○	○	○
	(3) 節電の取組の徹底（照明や空調の管理の徹底）	○	○	○	○	○	○	○
	(4) 校外との交流による信頼される学校づくり	○	○	○	○	○	○	○
	(5) 経営企画室の経営参画 ・担当者業務情報連絡会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める。	担当：経営企画室						

イ 平成31年度重点目標（方策は前項「ア 教育活動の目標と方策」による。）

【1】希望の理系大学進学を実現させる進学校としての教育内容と指導を充実させる

- ① 国公立大学合格者数 50名以上（H30実績：45名）
- ② 4年制大学進学率 70%以上（H30実績68.1%）
- ③ センター試験(5・7型)受験率 45%以上（H30実績：41.1%）
- ④ センター試験得点率80%以上 10名以上（H30実績：8名）
- ⑤ 授業以外で日常習慣としている学習時間 1・2年生共通：2時間以上（H30年実績：1.53時間）
- ⑥ 全国模試 3年次偏差値57以上 40名以上（H30実績：27名）

【2】科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容を充実させる

- ⑦ 外部研究施設や大学などへの訪問体験回数：3回以上/年(2年生の平均)（H30実績：4回）
- ⑧ 校外発表件数 300件/年以上（H30実績：315件）

【3】心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる

- ⑨ 遅刻累計 3回/年(生徒一人当たり)以下（全学年平均）（H30年実績：2.48回）
- ⑩ 部活動参加率 85%以上(1・2年生の平均)（H30実績：94%）

【4】本校志願者数の増加(適正入選倍率の確保)

- ⑪ 生徒の満足度 全学年評価平均値 80%以上（そう思う+やや思う）（H30実績：83.8%）
- ⑫ 入選倍率：推薦2倍以上、一般2.0倍以上（H30実績：推薦1.84倍、一般1.67倍）

以上